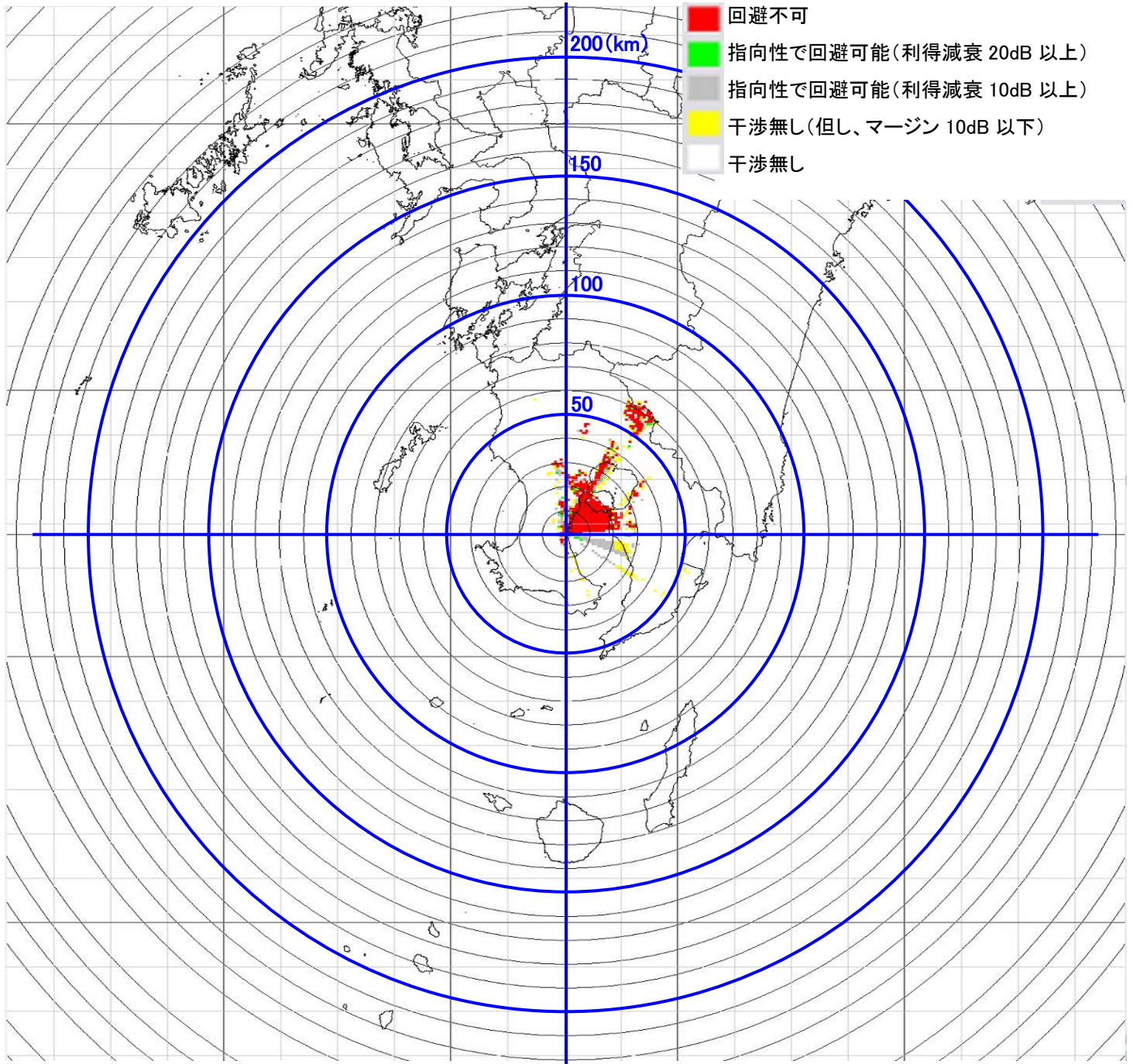
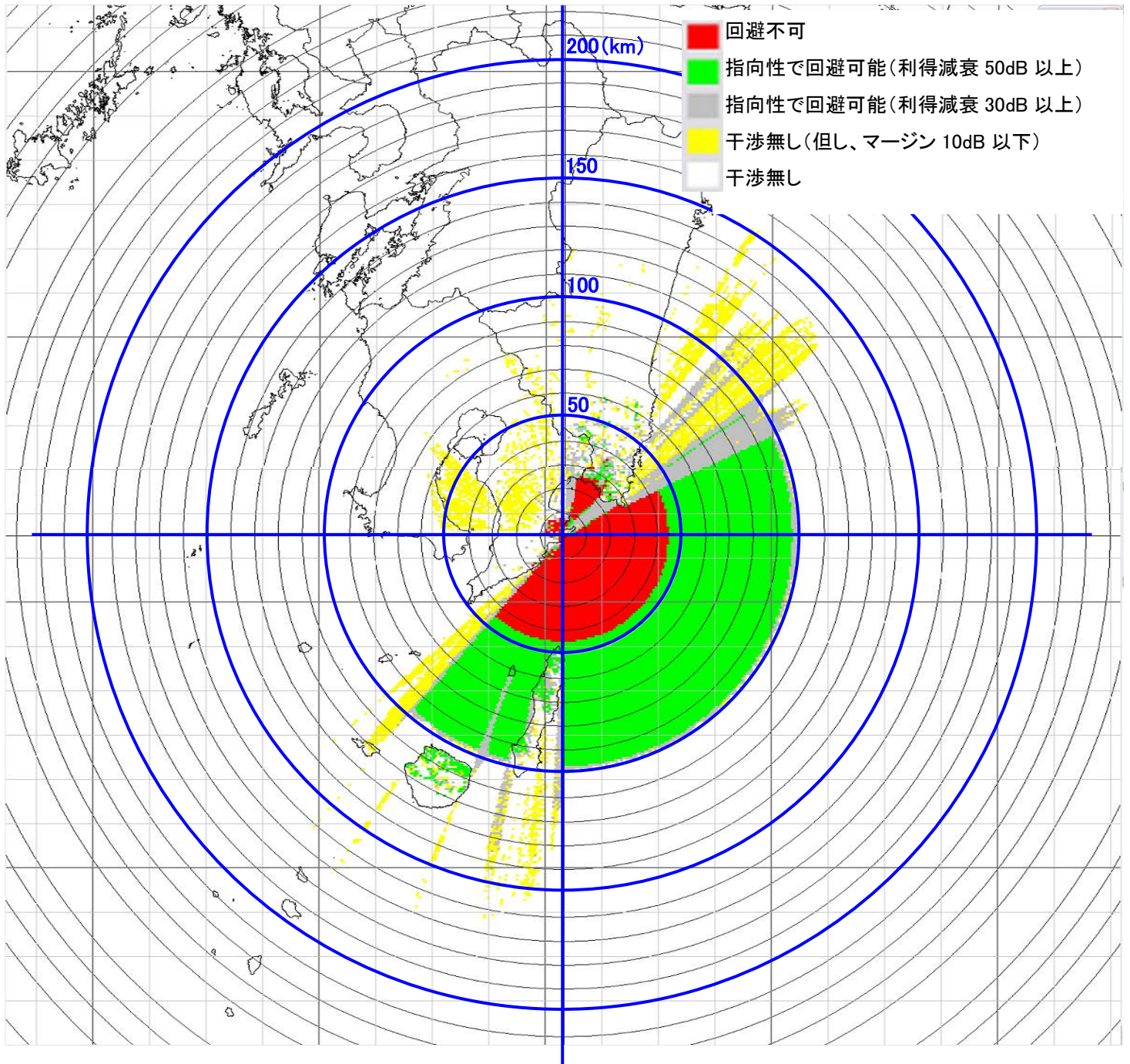


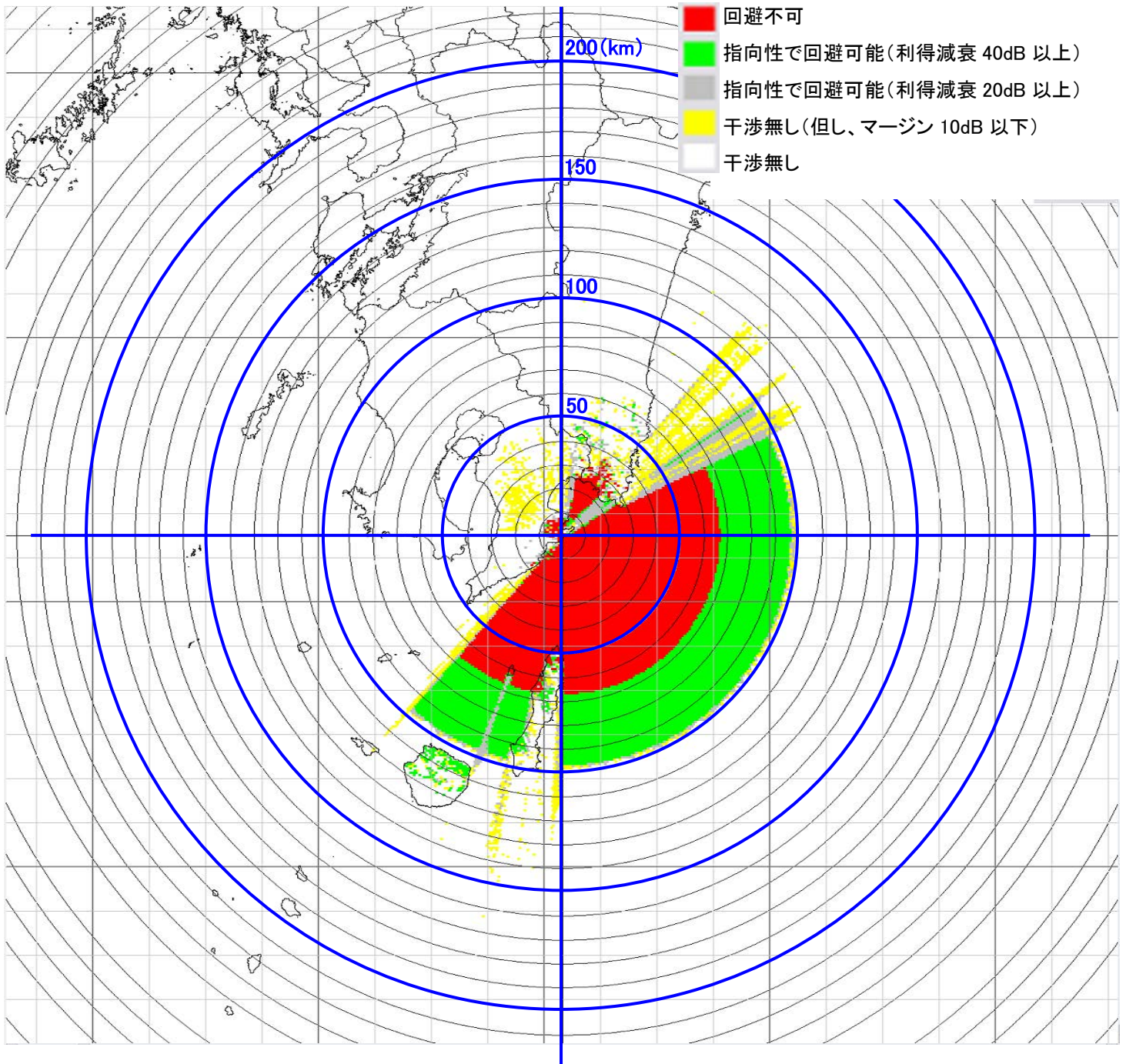
15-⑤ 鹿児島 6m 電界強度マップ…90度セクターアンテナ送信機



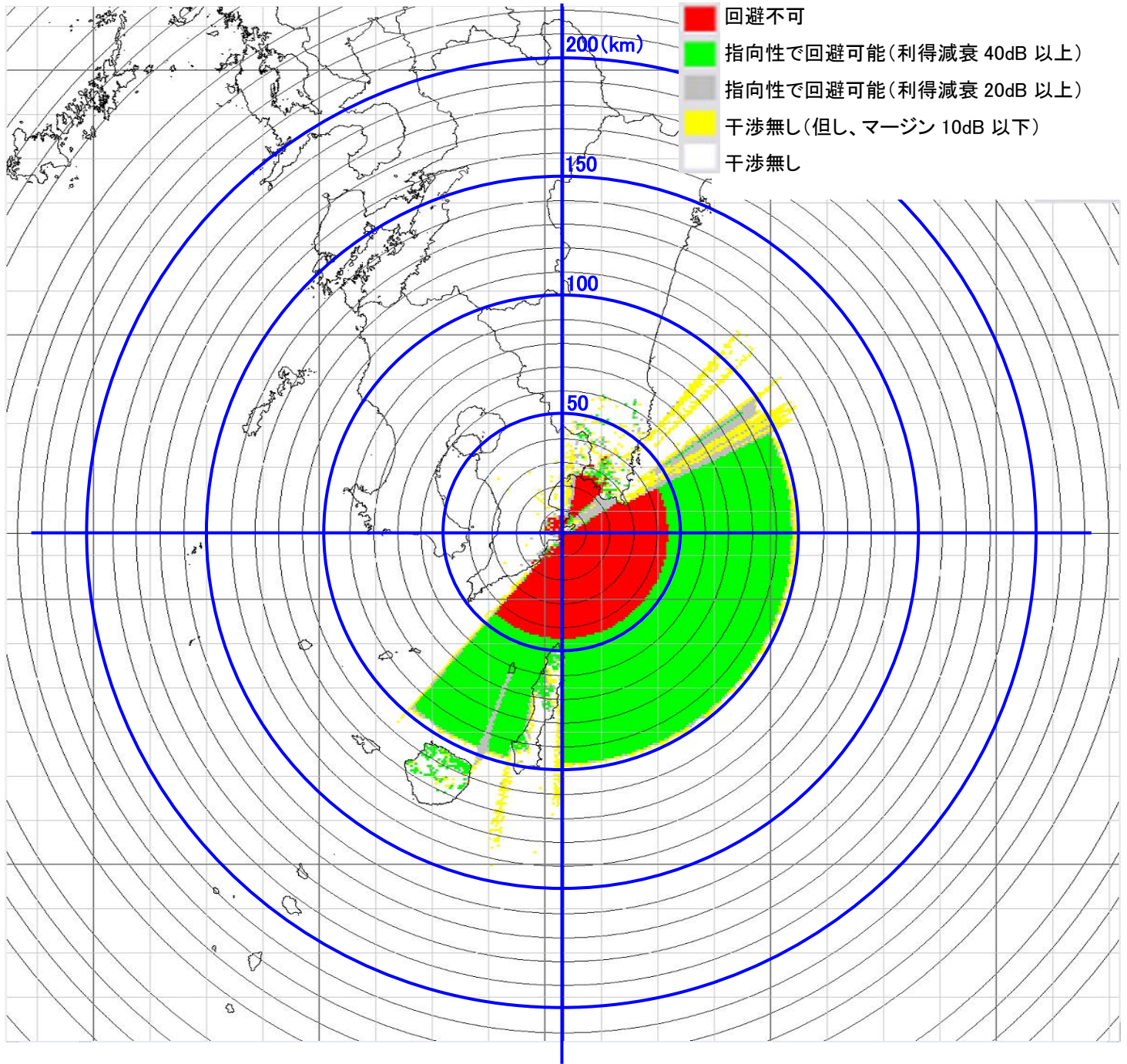
16-① 内之浦 電界強度マップ・・・φ60cm パラボラアンテナ送信機



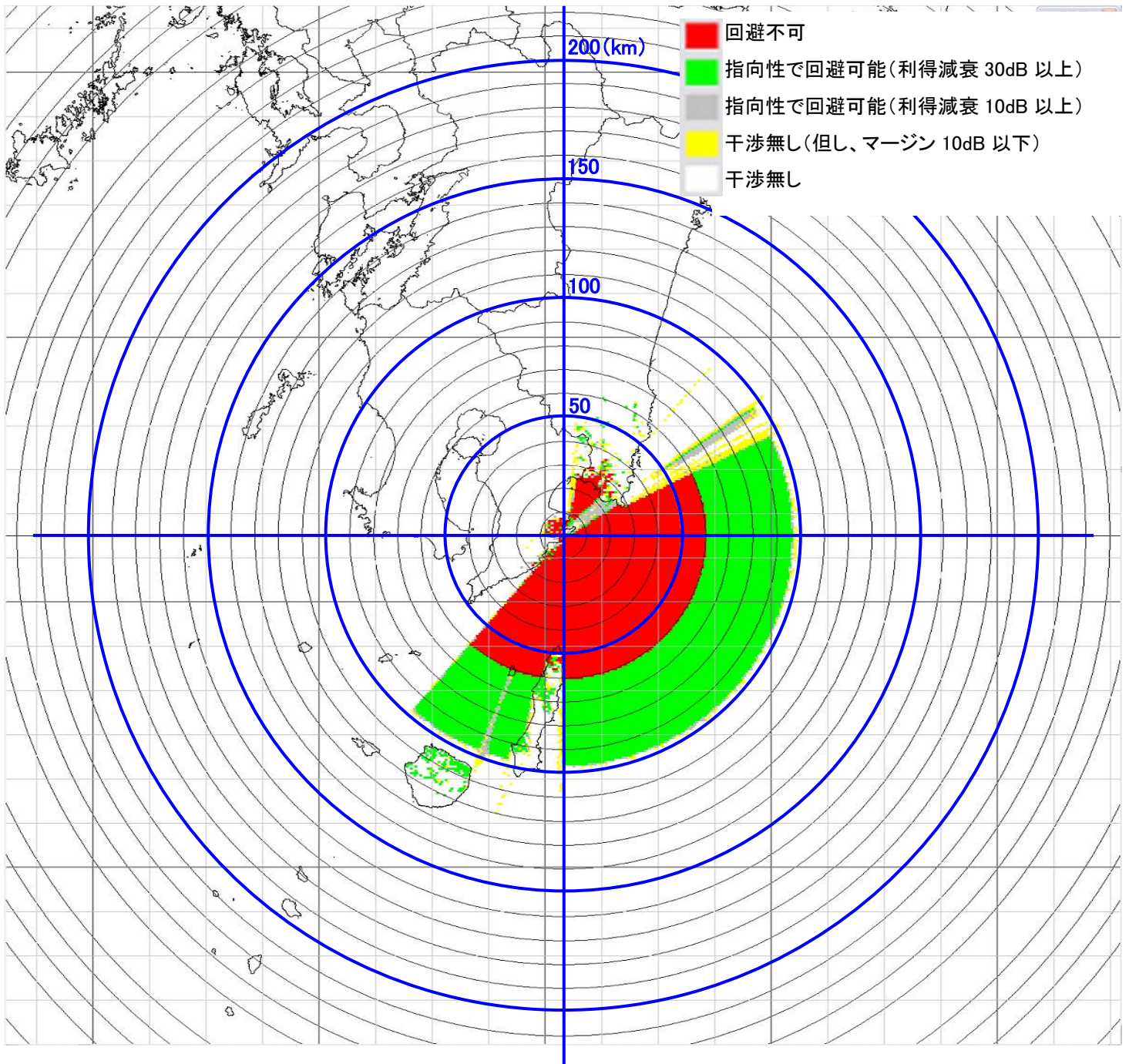
16-② 内之浦 電界強度マップ・・・φ30cm パラボラアンテナ送信機



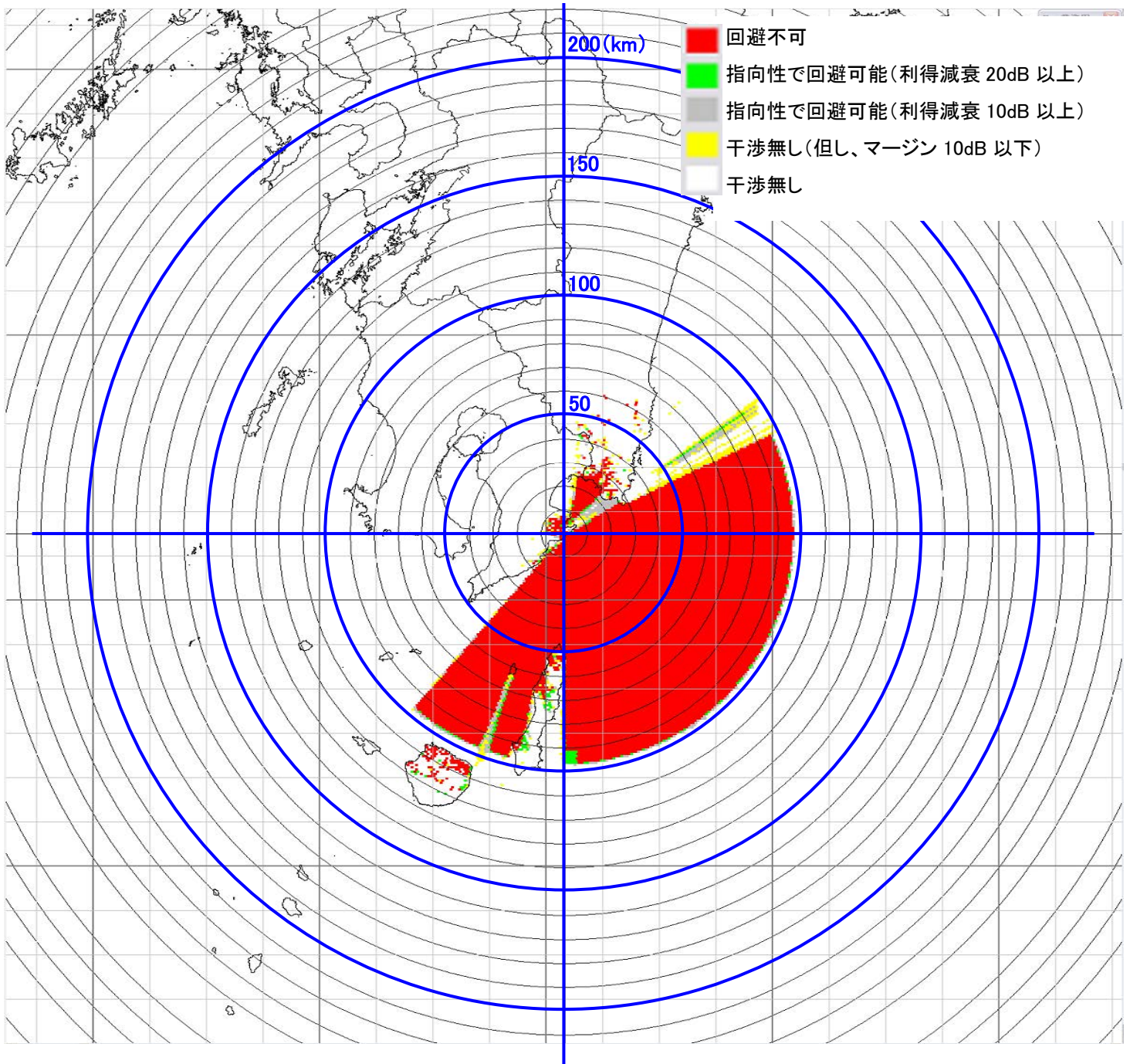
16-③ 内之浦 電界強度マップ・・・φ16cm レンズアンテナ送信機



16-④ 内之浦 電界強度マップ…高利得 90 度セクターアンテナ送信機



16-⑤ 内之浦 電界強度マップ…90度セクターアンテナ送信機



混信保護比について

今般答申を行う 23GHz 無線伝送システムにおける被混信局の希望波対妨害波比(D/U)は、29dB 以上とする。

ただし、降雨による減衰時においてもこの値を満足することとするが、降雨時のD/Uが 29dB以下となる時間率は、従来どおり 5×10^{-4} /年以下とする。

【理由】

社団法人電波産業会及び社団法人日本 CATV 技術協会ではデジタル受信装置の性能を規格化している。社団法人電波産業会では標準デジタルテレビジョン放送方式(OFDM)、社団法人日本 CATV 技術協会ではデジタル有線テレビジョン放送方式(64QAM)の対妨害波比率についてそれぞれの規格で定められており、被干渉信号帯域内における所要 D/U は、OFDM で 24dB、64QAM で 26dB となっている。

本システムにおいても同様の D/U を満足することが適当であるが、無線系の混信保護においては、複数の干渉妨害信号を考慮して 3dB を加え、D/U を OFDM では 27dB、64QAM では 29dB とすることが適当である。しかし、実際の運用では、OFDM と 64QAM が混在して伝送されることを想定し、混信保護比を 29dB とした。ただし、降雨による減衰時においてもこの値を満足すること。

【参考文献】

- 社団法人電波産業会標準規格「ARIB STD-B21」より抜粋

ARIB STD-B21		
5.2.5 受信チューナー部の特性		
13 セグメントを受信するチューナー部及び中央部の 1 セグメントを部分受信するチューナー部は、下記の性能を満足すること。		
・ 最小入力レベル	: -75 dBm 以下 (目標値)	(付属 10 参照)
・ 最大入力レベル	: -20 dBm 以上	
但し、1 セグメント受信機における入力レベルを 1 セグメントあたりの電力で測定する場合には、帯域幅相当分 (13 分の 1、-11 dB) 減じるものとする。		
表5-2 13セグメント受信機の妨害波抑圧レベル		
妨害波	項目	妨害抑圧比
アナログテレビジョン	同一チャンネル	18 dB 以下
	下隣接 (妨害波が下側)	-33 dB 以下
	上隣接 (妨害波が上側)	-35 dB 以下
デジタルテレビジョン	同一チャンネル	24 dB 以下
	下隣接 (妨害波が下側)	-26 dB 以下
	上隣接 (妨害波が上側)	-29 dB 以下
(注) 測定に使用する伝送パラメータは、Mode 3、ガード比 1/8、時間インターリーブなし、変調 64QAM、内符号 7/8 とする (付属参照)。		
1 セグメント受信機の場合にも、上記値を満足することとするが、アナログテレビジョンからの同一チャンネル混信では、中央部のセグメントは映像・音声キャリアとは周波数位置が異なることから、性能の向上が期待される。		
また、隣接チャンネルからの妨害についても、周波数位置が離れることから、性能の向上が期待される。		